



標準型救急車（通称2B型）のドクターカー改造例

「標準型救急車の高規格化改造 II」と兄弟仕様です。

車体特徴

車両は、4WD車をベース。
サイドタープと作業灯を装備。作業灯は、外部電源でも使用出来るようにしてあります。



同時納車したアルファードのHybrid DMATカーと同時出場することで長時間（数日間）の電源供給を得られます。

患者室内

II号車との大きな違いは、室内色。
ソフトなイメージの水色系で統一しました。

統一感を出すため、ハイテクバックボードと、その固定ベルトまで青色にして徹底してあります。
まるで別車のように雰囲気ガラリと変わりました。
救急車は、ソフトで爽やかな内装が合いますね。



FERNOイントラックスシステムを上下2段取付けました。

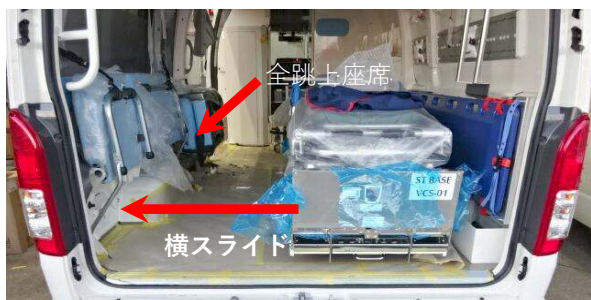
http://www.ferno-jp.com/table/e_intraxxtable.html

医療機器画面は、垂直になるように調整してあります。
写っているのは、弊社のオリジナルMRx用マウントです。
(単品販売も可能です)

上部のラッチハンドルも、室内色に→合わせて青色にこだわりました。



←ルーフサイド収納庫（左前） / マスクトレイ（右後）
こちらも水色に加工しました。
マスクトレイは、ギリギリまで容量を大きく作ってあります。



左座席は全て跳ね上げシートに改造です。



←水色の表皮にすることで、ソフトな風合いになりました。



防振架台は、弊社オリジナルのVCS-O1型
左図は、防振架台を240mm左へスライドしてあります。

FERNOイントラックスシステムとの相乗効果で一般的な高規格救急車よりも広く活動し易いです。

腰付近に空間が出来ますので、左側胸部ドレナージなど、処置の際に有効です。

(※↑床面は養生シートが付いている状態です)

勿論、床面は全部コーキング増し。
車内で開胸しても後の清掃性は良いです。



酸素ボンベ収納庫に着脱式のテーブルを設けました。パソコン作業や、食事など色々と重宝します。吸引器が取り付けられた状態でも簡易的に跳ね上げて仮保持することも可能です。

吸引器のブラケットとセットでオリジナル設計しましたので、吸引器のレイアウト変更せずに取付出来ました。テーブル脱着が容易な仕様に仕上がりました。



助手席後部の収納棚 (左から)

- 収納庫扉は、乗り降りし易く、間口の広い斜め形状とし、尚且つロック構造で開口面積が狭まらない構造にこだわりました。
- 収納庫内部には、携帯型酸素ボンベ2本を収納可能です。
- ゴミ箱は皆で使えるように車内中央に設置してあります。
- 後ろ向き座席の下部には、冷温蔵庫搭載。
- サイドタープのハンドルもスライドドアを開けてすぐに取り出せる場所に設置しました。(作業灯スイッチも同位置にあります)

この車では、IP無線無しでしたが将来用にAC100Vコンセントを施工しました。→
トレイは何かと使い勝手は良いです。トレイに塵とか液体とかが、載ってしまっても掃除がしやすいように外側に向けてスリットを切って清掃性を向上させてあります。



リモコンの混信を防ぐため、SHARPとPanasonic製モニターを1台ずつ装備しました。HDMI端子付きです。

アンテナ感度は、やはり車外が一番安定して綺麗に映ります。シャークアンテナに変換アダプターを付ければ、TVに接続出来ます。見た目もスッキリです。↓



通信関係

車体中心の高い位置に6~8人用Wi-Fiルーター用台座を設置し、納車時にWi-FiとBGANと接続しました。

運転席後部に衛星電話本体端末を設置。別途メインスイッチを設置。

このⅢ号車では、USBコンセントではなく、AC100Vのみとしました。インバーターは、600W

受話器は、皆で使いやすいよう地図入れ後部に設置しました。



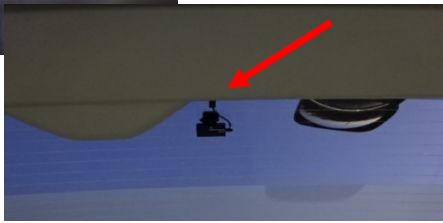
サイレンアンブ
メッセージは、「ドクターカーが〜」に変更済み
ハンドマイクの「ウ〜」音を押しと・・・Y音です。

「ナビ操作」スイッチ
走行中にどうしてもナビ設定や情報収集TV視聴が
必要な場合にこのスイッチを押すことで、車両を停止せずに
操作可能になります。



(前カメラ)

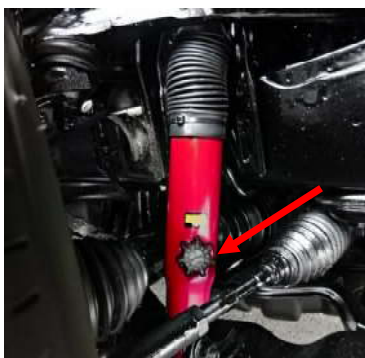
ドライブレコーダー (前後)
救急車は全長が長いので、ケーブルを延長して
後カメラを接続します。



(後カメラ)



インバーター出力 (600W) を車外タープ下で使用
出来るように出力コンセントを左外側面に設けてあります。



足廻り

・ショックアブソーバー (前/後)

高級乗用車に純正採用される、周波数感応型ショックアブソーバーへ
前後全てを変更し、乗り心地と操縦安定性の両立を図りました。
「全然乗り心地が違いますね！」と好評です。
14段減衰力調節機能あり (ダイヤル式)
(写真は、右前フロントサスペンション)

おわりに

今回の車両は、色々な人の繋がりがあって完成できました。
特にFERNOイントラックスシステムについては、数年前より
オーストリアDLOUHY社、タイPoolpan社からの協力と、
FERNOオーストラリアより具体的なご指導を仰ぎました。
またパーツについて、北海道 二商会様から部品供給協力があり、
工期の短縮に繋げることが出来ました。
この場を借りて皆様に御礼申し上げます。

医療はチームワークと言いますが、ドクターカーの製作においても、
多様なチームワークを指揮、集結していくことで大きな力を発揮
することを実感させられた一台です。

<https://www.youtube.com/watch?v=YtuTSQ1rhVY>

